

科目名		開講時期	開講学年	◎/ 選	2 単位 (30h)
成人・高齢者看護学実習		通年	3		
担当教員名	電子メール	オフィスアワー			
※清水美和子、柿沼秀子 荒木玲子、須田利佳子 中村織恵、佐々木純子 外館真理子	miwako.shimizu@tohto.ac.jp	金曜日 12:30~13:15			
授業の概要					
慢性的経過をたどる疾患・障害により治療を要する対象者、並びに終末期にある対象者を発達段階による特徴(成人期・高齢期)を踏まえて理解する。また、健康障害の段階に応じて変化する日常生活への変化に対応するために、患者・家族へのセルフマネジメントへの支援を含め、その人がその人らしく生活していくための看護実践方法を学ぶ。					
キーワード		到達目標			
慢性期・終末期 セルフケア・患者教育・ セルフケアマネジメント 退院支援・継続看護 QOL 向上、自立支援 加齢変化・残存機能 もてる力・強み		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象について、発達課題をふまえて全人的に理解することができる。 2. 成人・高齢期の健康障害をもつ対象の看護問題を捉え、看護過程を展開する。 3. 対象の特性をふまえ、自立に向けた個別的な看護支援ができる。 4. 慢性期あるいは終末期にある対象を理解し、QOL 向上をめざした看護援助を実践することができる。 5. 継続看護の必要性を理解し、医療職種間の連携・協働について説明することができる。 6. 学生として責任ある行動をとり、看護専門職として望ましい態度を身につける。 			

授業の計画・形式	
第 1 週	病院・病棟に関するオリエンテーションを受け、成人期・高齢期にある対象を受持ち、対象の日常生活行動に応じたケアを行いながら情報収集を行う。受持ち患者の日常生活援助を通して、疾患による症状や機能障害およびライフスタイル、社会的背景の視点からアセスメントし、看護上の問題を抽出した上で優先順位を決定、全体像を把握し看護の方向性を明確にする。
第 2 週	看護計画の立案後、病棟指導者に確認し、計画の実施、結果から評価、看護計画の修正を行う。行った看護に対する評価から、今回の実習における学習成果を発表し、学びの共有を行うことで、成人・高齢期における対象の看護について考えることができ、自己の課題および看護観についてまとめる。
第 3 週	

教科書、参考書	
教科書	各実習オリエンテーションにて提示する
参考書	○参 1. 浦部晶夫編集：今日の治療薬マニュアル 2023 南江堂、2023 ○参 2. 黒江ゆり子著：看護診断ハンドブック 第 11 版、医学書院、2018 他、各実習オリエンテーションにて提示する

先修要件	
2 年次後期までの学年進度とされているすべての必修科目の単位を修得し、3 年次前期の学年進度とされている必修科目の単位を修得見込みであること。	

成績評価					
本試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・演習)	その他	合計
0%	0%	0%	0%	実習内容・実習記録物 100%	100%

担当教員からのメッセージ	
実習は自主・自律の姿勢で臨むことが大切です。実習を通して不明な点や疑問点は自身で調べ、対象に必要な看護を工夫・検討しましょう。そして対象に必要な看護を見出し実践することが重要です。慢性期・終末期にある対象の特徴について理解を深め、対象にあった看護実践を通して看護の楽しさを感じられるように共に頑張りましょう。	